

「ことばの祭典 WEB 俳句小学生の部」入選句

【最優秀】

夏終わり 体育座り 始業式

長井 翔平（仁川小学校 6 年）

長い夏休みが終わった。二学期の始業式、体育館に並んだ。体育座りで座る。この感覚、久しぶりだなあ。学校でしか体育座りなんてしないからね。なんだかきゅうくつなこの感じ。さあ、また今日から学校が始まるんだ。

楽しかった夏休みが終わって、また始まった学校生活。それを「体育座り」という身体感覚に着目して表現できたのがすばらしい。友だちとの再会やたくさんある宿題とかではなく、日本の学校独特のこのポーズを作者はどんな気持ちで感じているのでしょうか。久しぶりの感覚に「これ、これ！」と喜んでいるのか、「ああ、きゅうくつでいやだな」と思っているのか、あなたならどっちの気持ちでしょうか。そういう議論ができるのもこの俳句の面白さだと思います。

【優秀】

あつい本あつくて読む気が失せる夏

山口 菜乃葉（仁川小学校 6 年）

「あつい」には「厚い」と「暑い」の漢字を充てます。耐えられないほどだった今年の暑さが、「あつい」のくりかえしで強調されているうえに、読書感想文の宿題に悩まされた全国の小学生にきっと共感される一句です。

ハロウィンねこのかそうにきがえよう

東 明奈（西谷小学校 5 年）

お面をかぶるとかではなくて、全身着ぐるみの猫になりきろうとしている。腕や足を着ぐるみに通していく姿が目に見えよう。ひらがなで書いたことで、とても素朴な気持ちで楽しもうとしていることが伝わります。

ちからもちムキムキアリのばかちから

安井 佑太弥（光明小学校 6 年）

画家の熊谷守一さんは一日中アリの動きを観察していました。「ちからもち」「ばかちから」の繰り返しは無駄なように思えますが、熊谷さんのようにじっくり観察していたからうまれた表現。全体がリズムカルで楽しい。

夏祭り 浴衣を着ると ベっぴんさん

三上 莉乃（売布小学校 6 年）

ベっぴんさんって、イマドキの若い人たちは使うかな。もしかしたら、おじいちゃん、おばあちゃんにほめられたのかもしれない。いずれにしても浴衣を着るという特別な日を胸躍らせて楽しんでいるのが目に浮かびます。